育英会創立当時の秘話

大乗寺山主　東　隆眞

横浜善光寺派遣留学僧育英会三十周年おめでとうございます。

黒田武志老師は善光寺開創十五周年昭和五十九年（一九八四）一月十五日成人の日に海外に留学僧を派遣し、人材の育成をはかり、もって仏教を振興し、世界平和、人類の進歩に寄与せんことを願い、設立したのである。

当時の委員として当時駒澤大学の副学長であった奈良康明先生、幹事の新美昌道老師と拙僧などは存命しているが、光真寺黒田俊雄老師、總持寺祖院監院鷲見透玄老師、宝泉寺住職佐藤俊明老師らはすでに御遷化になってしまっている。理事長武志老師も平成十六年十二月二十九日、大腸癌で六十七歳で御遷化となり、いまは第二代理事長として黒田博志老師がこれを立派にうけついでおられる。留学僧は、百三十名となっている。一か寺で、このような快挙を企てた人は他にいない。

ただし、東京都中野区の名刹・古刹である成願寺の小林貢人老師は、黒田老師を受けて成願

寺学術振興基金「小笹会」を設立し、今日に至っている。

秘話をひとつ。

育英会をはじめて、一、二年経ったころ黒田武志老師と奥様は当時、世田谷区弦巻にあった駒澤学園に拙僧を訪ねてみえた。

老師いわく。「せっかく立ち上げた育英会だが、もう止めようと思う。というのも、おもてでは黒田さんはいいことをしているなぁと言いながら、裏では、黒田のやっていることは、自己満足だ、売名行為だ、いい気になっていると足をひっぱっているんだよ。すっかり嫌気がさしてしまったよ。」拙僧「何を言っているんだ。あなたのやっている事はすばらしい、すごい事なのだ。誰がなんと言おうとやめてはいけない。私も出来る限りの事を応援するよ。もう一度考えてみてくれよ。」「そうね、それじゃあ考え直してみるわ。」そんなことを想い返しながら、この度三十周年記念大会をお迎えすることが出来て、ほんとうにうれしい、ありがたい極みです。泉下の黒田老師も、うなづきながら、ほほえんで、博志老師に拍手をおくっていることと思います。

一層のご発展をお祈りいたします。